

『幻聴妄想かるた  
解説冊子＋ CD「市原悦子の読み札音声」＋  
DVD「幻聴妄想かるたが生まれた場所」付』

# 未来の医療者たちに 返句を作ってもらった



編著：ハーモニー（就労継続支援 B 型事業所）

定価 2,520 円（本体 2,400 円＋税 5%）／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657

私は東京で精神科臨床医として長年、仕事をしていましたが、機会があって昨年の春より医療福祉系の大学の教壇に立つことになった。学生らの意欲や意思に見合うような、目を輝かせるような教材に出会いたい。そう思っていたときに、医学書院発行の『幻聴妄想かるた』をみつけた。

『幻聴妄想かるた』は精神障害に罹病された患者さんたちが通う、東京・世田谷区の就労継続支援 B 型事業所ハーモニーの作品だ。メンバー自らの幻聴妄想による困りごとを、カルタという形態で表現したものだ。

パッケージを開いたときに驚いた。まさに「カルタ」だったからである。50 音ひとつひとつを女優の市原悦子さんが朗々と読み上げる CD、そしてその製作の過程を取めた DVD と解説冊子が付録になっている。

札は、一句一句が内容、絵ともに、たいへんユニークで楽しい。ただ、句は創作ではない、症状に苦しみぬいた患者さんたちの、悩ましい幻覚・妄想・思考障害・人間関係等への心情吐露、苦悩表現なのである。しかしこの全体の根底に、それに対抗するかのような明るさと強さがあるのだ。

私はすぐにひらめいた。このカルタを次の学生の講義のテーマに使う。そして患者さん方の症状理解のために単にカルタを読み上げるだけで

なく、学生それぞれにも、返句を作り表現してもらおう、と。

思春期後期にいる医療福祉系の学生たちは、自分自身も弱さに満ちた時期にいる。だからこそ、授業でカルタを 1 枚ずつ回覧し、返句を作るという課題を設定したとき、障害者の不安定で脆い心性に感情移入しつつ、自己のこころを表現していった。それらは頑健な社会に潜む高邁で皮肉的な見解ではなかった。近くで温かな手を取り仲間とともに乗り越えていこうとする者の視点であった。

カルタという媒体を通じて自己表現をし合うことによって、未来の精神科医療に関わる学生らと病者は、何かを紡ぎ合ったのではない。それは言葉だけではない。言葉を駆使すればするほど消えていくような類いのもの、安らかさとか、友情とか、楽しさとか、漠然としたものを交わし合ったのではないかと思えてならない。最後に、学生らの返歌からいくつかを紹介したい。

## 〈学生からの返歌〉

- (り)理解したい あなたに起こった つらいこと  
(き)きみと幻覚さん あわせてひとりの あなたです  
(い)一緒だよ 私たちとあなたの あるべき世界  
(あ)ありがとう カルタをつくってくれて  
(わ)わたしには 見えず聞こえず でも理解